

# 農業ってなあんた

私たちにとって農業って何でしょう。農業に従事している人にとっては、それは職業であり日々の生活の糧となつています。一方、農業は消費者に多様な農産物を供給し、豊かな食生活を保証してくれます。熊本県は、生産量日本一のスイカやメロンに代表される全国有数の食料供給基地です。「食」を通じて、全ての県民が農業と密接な関わりをもっているといえます。ただ、もう少し私たちの周囲を見回してみよう。農業がまだまだ私たちの気がつかないところで、日常生活と密接に関わっている——そんな風に考えたことはありませんか。今回は、農業が私たちの生活に果たしている役割を、今までとは違った角度から見直してみよう。

AGRICULTURE  
●  
農業と環境  
●  
ENVIRONMENT

AGRICULTURE  
●  
農業と文化  
●  
CULTURE



農村にひろがる水田や畑、その間を流れる河川や点在する雑木林——私たちが見慣れたこのような田園風景は、日本人の「心のふるさと」であり、都会の人たちにとっては心のやすらぎの場となっています。そしてこれらの森林や河川、農耕地などは自然の状態に人の手を加えた「半自然」の状態といえます。私たちの祖先は、長い年月をかけて自然のサイクルと人の営みをうまく調和させて、私たち人間が健康に生きるための環境を維持させてきました。



水道、空気清浄器、酸素ボンベ、ダム（貯水・砂防）、農業の様々な設備は、これらの役割を一度にこなす天才的マルチプレイヤーです。仮にこれらの環境を維持するために人工の施設で全てを補うとすると、熊本県だけでも年間三、六〇〇億円（試算）もの費用を要します。

EU諸国では、生産性だけでなく、農業が持つこのような機能を重視した政策が既に展開されており、国民的な支持を得ています。

英語の *Culture*（文化の語源が *Cultivate*（耕す）にあることからわかるように、文化は農業に源を発し、農村により育まれてきました。

熊本には、阿蘇の火振り神事、矢部の八朔祭、八代の妙見祭をはじめとして、農耕文化を発祥とする祭が数多く残っています。土地土地に残る民謡や郷土料理、通潤橋（矢部町）に代表される文化遺跡など、農耕文化は意外と私たちの身近にあるものです。そしてそれは、私たちの祖先によって守り続けられ、現代にも生きています。

都会生活を過ごす人々たちにとって、大自然のなかで過ごす余暇は心安らぐものです。そして、これらの自然環境の多くの部分は農業と関わり、農村が育んできたものです。農村リゾートという考え方ができたように、例えば観光農園や農作業体験、小中学生の山村留学、ふるさと宅配便など、農村と都市との交流といった農業・農村の新しい役割に対する関心が高まりつつあります。

